

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 9月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671500294		
法人名	医療法人社団双星会		
事業所名	グループホームつばさ		
所在地	富山市春日368-1		
自己評価作成日	平成28年8月3日	評価結果市町村受理日	平成28年9月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成28年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

豊かな自然環境の中で近くに春日公園があり、散歩に出掛け足湯を楽しむことが出来ます。ホームの中庭に畑があり、花や野菜を眺め成長を楽しみにしておられます。医療面では、月2回の担当医の訪問診療があり、急な体調異変にも対応できており入居者様は安心して暮らしておられます。職員は日々笑顔で接し、入居者様と共に笑いが絶えないホームとなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は利用者寄り添い、家庭的な環境の中で、心穏やかに過ごしてもらえるように支援している。10時のお茶タイムは、職員も一緒にテーブルを囲み、中庭に咲く紫陽花が色づいてきたことなどを語り合い、共に暮らす雰囲気をつくっている。また、地域の人達との交流を継続する中で、新たに、保育園児たちの訪問を受け、肩たたきで楽しくふれあうなど、地域に根ざした暮らしの支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームつばさ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした環境の中で障害をもった方でも安全・安心・安定の暮らしができるように尊厳を保ち、その人らしさを見いだせるように支援することを理念としている。全体ミーティングにて管理者と職員は理念を共有し、理念の実践につなげている。	理念は、入職時やその後の全体ミーティングの機会に確認し、共有している。また、職員それぞれが、理念を念頭に置いて支援するように心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサークル活動に参加している。事業所では地域ふれあい会を開催したり、もちつき大会には地域の方の参加がある。また、保育園児との交流の機会があった。運営推進会議は定期的で開催している。	地域とは、事業所の行事に参加してもらったり、利用者と共に公民館に出かけ軽体操をするなどのつきあいを継続している。課題であった保育園児たちとの交流が実現するなど、地域に根ざした事業所運営に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて実践内容を伝え活かしている。地域ふれあい会の中で「認知症」についての出前講座を開催し相談も受けている。14歳の挑戦の受け入れをしているが、今年の参加はなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況や活動等の報告を行い、課題や取り組みについての意見を頂いている。会議で話し合われた内容は職員の回覧にて目を通す他、全体ミーティングでも報告があり、職員間で話し合い、事業所のサービス向上に活かされている。	事業所の活動報告を行い、感想や意見をもらっている。また、地域で暮らす高齢者の外出支援など、地域で高齢者を支援するための意見交換が行われ、事業所の運営にも活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には地域の行政担当者が参加して下さり、事業所の取組みに理解や協力を頂いている。	行政担当者とは運営推進会議以外にも、事業所の取組みを伝えたり、後見人制度について説明を受けるなど、市と協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて職員は十分理解しており、尊厳を保つつケアを実践している。資料もいつでも見ることが出来る。基本玄関に鍵をかけない自由な暮らしを支援しているが、職員が手薄になる時間帯のみ入居の安全確保のため、玄関の施錠をしている。	普通の家庭と同じように、事業所内にもリスクがあることを念頭に置き、いかに目配りしながら、自由な暮らしを支援していくか、全体ミーティングやカンファレンス時などに確認し、実践につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し研修内容は、全体ミーティングで報告がある。また、マニュアルや資料を通して学び虐待防止の理解を深めている。入浴の際の身体チェックや日々の観察も重要と考えており、気づいたことはカルテ記入している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。資料を通して権利擁護についての理解を深めている。現在適応されている方がおり、今後も継続して支援できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分な説明を行い、ご家族からの疑問や質問に対して理解や納得が得られるように話し合っている。解約の際も何度も話し合いのもと納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話の際何でも話して頂けるよう雰囲気作りに努めている。利用者や家族の意見・要望は記録等を通してユニットミーティングや全体ミーティングで話し合い運営に反映させている。また、定期的な介護相談員の来訪・家族会・運営推進会議の開催にて意見を表せる機会がある。	家族には、事業所での様子や行事などを、毎月「ほのぼのだより」で知らせ、面会時や電話などで、意見や要望を聞いている。また、利用者からの「パンを買いに行きたい」などの要望に応え、利用者や家族に対して開かれた運営となるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング・ユニットミーティング等で、職員が意見や提案を発言しやすい雰囲気作りに心掛け、反映に努めている。	ユニットごとのミーティング、ユニット長ミーティングなど、それぞれが意見を述べやすいような会議体制とし、保育園との交流開始など、事業所の運営に意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の意見や意向を代表者に伝え、職員一人ひとりが向上心を持って働けるよう環境や職務状況が整えられるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人ひとりの力量を把握し、段階に応じた研修を進めている。研修の内容は、回覧で全職員が閲覧できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	富山県認知症グループホーム連絡協議会の研修に積極的に参加し、同業者と情報交換や交流する機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ユニット長は、事前面談で本人状況を把握し、本人・家族の思い・希望・不安なことを理解し、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ユニット長は、家族が困っていることや不安に思っている事等の要望を理解し、少しでも解消できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ユニット長は、入居相談時に本人の認知症状や身体能力の見極めと、家族の希望を含め十分な話し合いを設け、適切なサービスの情報提供や対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の尊厳を大切に、介護する人される人という関係にならないよう生活における様々な時間を共有し共に支え合える関係を築けるよう努めている。また、人生の先輩として労ってもらったり、生活文化の大切さ等色々教えてもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や電話をかける際、日々の生活の様子や気付きを報告し、情報提供に努めている。また、家族の思いも汲み取りながら、本人と一緒に支えていくための協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みの人（近隣・知人・昔からの友達）が訪ねて来られる。馴染みの美容院や理髪店に行けるよう支援している。	公民館のサークルに出かけた際に、知人と再会したり、友人の訪問などがある。また、馴染みの美容院やお盆の墓参りに家族と一緒に出かけると、馴染みの人や場との関係が途切れないうよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について情報を共有し、関係がうまくいくように雰囲気作りに努めている。また、状況を把握し孤立しないように食事の席やソファの位置等工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族からの相談や要望に応じ、支援する体制にあることを伝えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向を把握できるように努めている。意志表示の困難な方は、日々の行動や表情をよく観察し本人の思いを見つけられるよう努め情報を共有している。	共に過ごす中で、ポツンと出る言葉や仕草、レクリエーション時の表情などに留意し、どんな思いや意向があるのかを職員間で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の来訪時に話を聞いたり、本人との関わりの中で把握に努めている。センター方式のアセスメントを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、心身状況・残存能力に変化がないか、職員間で情報を共有し、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、本人・家族の意向を伺っている。また、日々の関わりの中での気づきを職員間で話し合えるカンファレンスやモニタリングの場を大切に介護計画作成に繋げている。	職員は、利用者一人ひとりをいかに支援していくか、そのために必要なことを具体的に話し合い、また、家族からの要望を反映させた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施内容や身体状況の変化、気づき等を個別記録に細かく記載することで職員間の情報を共有し、ケアプラン・評価の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスで対応できないニーズにもできる限り柔軟に応じられるよう、隣接の老人保健施設の理学療法士・言語聴覚士、訪問診療の医師とも連携を取り、多機能化が図られている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サークルに参加している。ボランティアの先生による書道・歌の会が開催されている。市事業の移動図書も活用している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療があり、医師は状況を把握しており適切な医療が受けられている。受診の付き添いは要望に応じ支援している。訪問診療・受診の結果は家族に連絡している。	法人内のクリニックからの訪問診療を希望する利用者や家族の要望に応じている。また、専門科受診に繋げるなど、医療面の連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子や表情の変化を見逃さないよう早期発見に努めている。看護職員が勤務している日は、すぐに相談することで、適切な対応が来ている。不在時には、隣接の老人保健施設の看護師や訪問診療の看護師に相談し、助言や対応の協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には家族了承のもと、医療機関に情報の提供をしている。入院中は面接に行ったり、密に情報交換を行い、出来るだけ早期にホームに戻るよう支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行ってない。重度化した場合は、本人・家族の意向を尊重しつつ、ホームでできることを説明し理解を得ている。少しでもながくホームで生活できるよう医師等と連携を図り本人・家族を支援できるように取り組んでいきたい。	看取りには対応していないが、利用者や家族の希望に沿って、可能な限り支援することとしている。利用者の状態に変化が見られれば、医師の所見をもとに早めに家族と話し合う機会を持ち、今後の方針を共有する体制をつくっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救命講習会を受けの機会があり、実践力を身につけるように取り組んでいる。緊急時対応マニュアルがある。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練・消火訓練を行っている。地域の方には協力体制をお願いしている。	日中と夜間の火災を想定した避難訓練を1回ずつ行い、避難方法を身につけるように努めている。また、法人内のバックアップ体制づくりに取り組んでいる。	火災に対しては避難訓練を継続して実施しているが、地震を想定した訓練は未実施である。今後は、地震を想定しての対策や避難訓練を行うことが期待される。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけない態度や言葉遣いに注意を払いプライバシーを損ねないように対応している。それらをミーティングで確認し話し合っている。	家庭の中にいる雰囲気や心穏やかに過ごしてもらえるよう、自由で、自己決定が尊重される暮らしを支援するため、指示的な言葉などを使わないように留意し、利用者の尊厳を保つケアを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者がなんでも話しやすい雰囲気作りを心がけ自分の意志で決定や選択が出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から無理強いしないよう留意し一人ひとりの生活のペースを大切にしてペース合わせて過ごしてもらっている。本人の希望に沿って外出支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好まれる服装や季節に合ったものに整えたりして支援している。外出時には、帽子やスカーフ等でおしゃれができるよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る方が少なくはなっているが、もやしや根とりや簡単な下ごしらえや食器拭きなど、出来ることが継続できるように共に作業している。	土用の丑の日には「うな丼」にするなど、季節感を取り入れた献立を工夫し、会話などにも留意しながら、楽しく食事ができるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ食事量の調整をしたり、水分摂取が少ない方には本人の好む飲料を用意したり、ゼリーを作って提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯みがきの声掛けを行い、能力に応じ介助を行っている。入浴日にポリドント洗浄している。口腔内の残渣物がないようにして内服の与薬を行っている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。個々の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。また、その方にあつたパット等の検討をすることで失敗を減らせるよう支援している。	トイレでの排泄につながるよう、声のかけ方、失敗時のさりげない対応、使用するパット類など、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を目指し、牛乳やポカリスエット等水分を促したり、運動・散歩・腹部マッサージを取り入れている。下剤使用の際は、個々の状態に合わせて調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	あらかじめ入浴時間を伺ったり、声掛けを行い入浴してもらっている。一人ひとりの好みの湯加減を把握しておりその都度温度の調整をしている。	体調や好みなどに合わせ、浴槽にゆっくりと浸かり、手足を伸ばして気持ち良く入浴できるように心がけている。また、洗えるところは自分で洗ってもらうなど、自尊心に配慮した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、自室で休息されたり自由にしてもらっている。夜間、照明の明るさや空調の加減を好みに合わせて調整し安眠につながるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルがあり、薬の効能や目的・副作用についていつでも確認できるようになっている。職員間で与薬もれがないように連携している。内服薬変更時には症状の変化に特に注意を払い、変化について医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや能力に応じて活躍できる場や役割を提供している。また、本人のやりたい事が気分良くできるよう環境作りに努めている。行事でビールなど嗜好品を楽しむ機会がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援としては行えてないが、天気の良い日は外気に触れる様、散歩・足湯・ドライブ支援をしている。本人の希望に沿って、馴染みの美容室や近くのスーパーに買い物に出掛ける支援をしている。	中庭に出て、季節の花々を見ながら、洗濯物を干したり、談笑したりしている。また、近くの春日公園での足湯、塩の千本桜、神通峡の紅葉など、四季折々の外出を楽しんでいる。利用者が欲しいものがあれば買い物に出かけるなど、個別支援にも取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の気持ちが安心する範囲で財布を所持されている方もおられが、ほとんどの方は、預かり金としてお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいと要望があれば、ご家族の了承が得ている時かけてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の整理整頓を心掛け、利用者が過ごしやすいように努めている。中庭には畑があり、季節の野菜や花を眺めることができる。フロアには、季節に合った飾り（お正月飾り・お雛様・クリスマスツリー等）を取り入れるよう工夫している。また、こまめに温度調節をし、生活環境を整えている。	利用者が共用空間で過ごしやすいよう、利用者に合わせて温度や照明などを調節している。習字教室の作品を利用者ごとに飾ったり、「新幹線かがやき」のちぎり絵を皆で作って張り出すなど、和やかな明るい環境をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はそれぞれお気に入りの定位置があり、テレビを観たり他者との会話を楽しみながら、思い思いの時間を過ごしている。また、利用者間のトラブルには常に留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるよう本人・家族と相談しながら馴染みの家具や写真を持ってきて頂き工夫している。	居室の入口に利用者手作りののれんを飾ったり、居室には電話器や家族の写真、家族訪問時用の椅子などを置いて、その人らしい居室をつくり、穏やかに過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態や状況に合わせてベッドの位置や家具の配置を工夫している。特に転倒のリスクがある場合は職員間で意見を出し合い、より安全で自立した生活が送れるように努めている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばさ  
作成日 平成 28年 10月 3 日

### 【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災に対しては避難訓練を継続して実施しているが、地震災害訓練は行っていない。	地震を想定した訓練をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム内において倒れやすい物がないか、点検をし改善をする。</li> <li>・避難場所の確認や移動において、マニュアルを作成する。</li> </ul>	一年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。